

きょう28日は日本(世界)肝炎デー

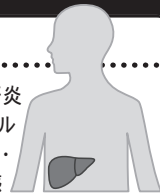
一生に一度 肝炎検査を

きょう28日は日本(世界)肝炎デー。肝炎は日本人で最も多いウイルス性の感染症で、放置しておくとなんかんに進行する可能性の高い病気です。しかし、早期に発見できれば新薬の登場で早期治療により高い効果が期待できるようになりました。肝炎治療の現状について、県内2カ所の県肝疾患診療連携拠点病院のうち、順天堂大学医学部附属静岡病院(伊豆の国市)の玄田拓哉・消化器内科先任准教授に聞きました。

<企画・制作/静岡新聞社営業局>

日本肝炎デーとは

世界レベルでウイルス性肝炎のまん延を防止し、肝炎ウイルスの感染患者に対する差別・偏見を解消するとともに、感染予防の推進を目的として世界保健機関(WHO)が2010年に世界肝炎デーを制定した。日本では翌11年、肝炎対策基本法に基づく5月の肝臓週間を7月に変更し、12年から世界肝炎デーと同じ7月28日を日本肝炎デーと定めた。全国各地で地域住民らを対象に研修会、講演会、街頭キャンペーン、情報交換会、無料個別相談会などを開催し、肝炎についての正しい知識の普及や予防の重要性を呼び掛ける啓発活動が展開されている。



● ほとんどない自覚症状 ●

—肝炎はどのような病気ですか。

玄田 ウイルスやアルコールなど何らかの原因で肝臓に炎症が起こる病気です。国内の患者の約8割がウイルス性肝炎と考えられ、大半がB型とC型肝炎です。B型とC型は主に血液や体液から感染します。肝臓は

「沈黙の臓器」と言われるように、感染しても自覚症状がほとんどないのですが、そのままにしておくとなんかんに進行する可能性が高く、がん対策の観点からも早期発見のための検査と早期治療が重視されています。

—治療上の課題はありますか。

玄田 B型やC型の患者は全国で300万~370万人に上り、およそ40人に1人と推測され、ウイルス感染していても自覚していない人が多いと考えられます。感染の有無は血液検査で分かります。職場や市町健康診断などで検査を受けられますが、結果に無関心だったり、自覚症状がないため陽性判定が出ても病気にかかったと思わず深刻に受け止めなかったりして、再検査や治療を受けない人が多いことが問題です。特に働き盛りの40~50代にその傾向が強く、この世代の早期発見は大きな課題です。陽性判定は「放置すればがんになる可能性もある」という警告と認識して、陽性の場合には安易に判断せず、必ず医療機関で肝臓の再

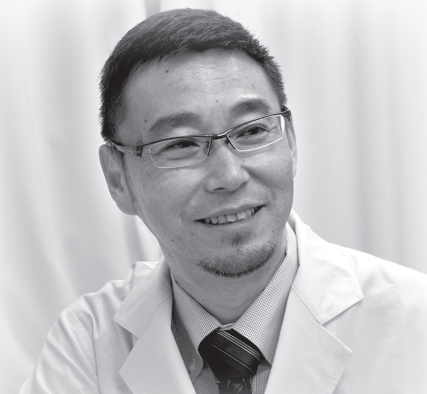
検査や治療を受けてください。

● 早期発見・治療が鍵 ●

—治療の現状はいかがですか。

玄田 C型肝炎は、新しい飲み薬が登場したことで現役世代は仕事しながら、短期の内服で治療が続けられるようになるなど、患者さんの生活の質に配慮した治療が可能になっています。治療薬の開発が進み、今ではC型の約9割は治り、B型も投薬で症状改善につながるようになりました。国も肝炎対策に乗り出し、肝炎治療や治療後の経過観察のための国や県の医療費助成制度も整っています。

ウイルス性肝炎は早期発見・早期治療ができれば、もはや肝がんを予防できる時代です。肝炎の血液検査は一生に一度でいいので、受けていない人は自分や家族のためにもぜひ、検査を受けてほしいと思います。



順天堂大学医学部附属静岡病院 消化器内科先任准教授の玄田拓哉医師

順天堂大学 医学部 静岡病院

JUNTEDO UNIVERSITY SHIZUOKA HOSPITAL

きょう 静岡まちなか街頭キャンペーンを開催します

7月28日(木) 12:00~13:00 **場所** JR静岡駅 新幹線在来線改札口付近

※配布物がなくなり次第、終了します。

●肝疾患の相談は、県肝疾患診療連携拠点病院(順天堂大学医学部附属静岡病院の「肝疾患相談支援センター」または浜松医科大学医学部附属病院の「肝疾患連携相談室」)へ。

順天堂大学医学部附属静岡病院 「肝疾患相談支援センター」 伊豆の国市長岡1129 <電055(948)5168> (受付時間10~16時、土日祝を除く)

浜松医科大学医学部附属病院 「肝疾患連携相談室」 浜松市東区半田山1-20-1 <電053(435)2476> (受付時間9~16時、土日祝を除く)